

兵庫県西部のヒロオビミドリ シジミの分布に関して

岩 村 巖

本種ヒロオビミドリシジミは現在兵庫県をはじめとして京都府・岡山県・鳥取県・島根県・山口県等、西日本全体に広く分布していることが知られており、本県においても佐用郡上月町久崎がその産地として古くから有名であった。当地における本種の採集記録は昭和9年にさかのぼるといふから、かなり古くから採集されていたことになる。当時県下で数少ない蝶の研究者であり、現在も本県の蝶研究家の間で指導者として活躍しておられる山本広一氏により、昭和9年6月17日に4♂1♀が採集されたのが最初の記録である。もちろん当時はまだ本種がオオミドリシジミ等とは分離されていたわけではないので、同氏は少しかわった *Favonius* がとれたが、ひょっとしたら新しい種類ではないかと考えておられたようである。同氏はその後もう一度となく久崎において本種を採集され、それらの記録は「兵庫生物」に発表しておられるが、一般の採集者が本種を求めて盛んに県西部の山地に入るようになったのは1950年代の後半になってからである。筆者が本種とはじめて出会ったのは、まだ学生であった1959年のことであり、かつての学友であり現在横浜に在住の中谷貴寿氏とともに、佐用郡佐用町青木で2♂を採集したのが最初である。その後赤穂市に勤務するようになったのを機会に、西播の各地の山々を歩き約20年間にわたって当地方における本種の分布を調査しつづけて来たのであるが、何分にも交通不便の地域である上に成虫の発生シーズンが短い事等もあって、十分に分布のようすが解明されたとはいきれない状態にあるのが現状である。

1965年までの調査結果については兵庫生物Vol.5.No.1に「西播におけるヒロオビミドリシジミの分布に関して」と題して報告しておいたが、その後新分布地もいくらか発見されており、さらに最近には播磨蝶友会のメンバーと共に冬期の卵採集にも出かける機会が多くなった事等もあり、次第にその分布状態もわかりはじめて来たので、ここに第2報の意味でこれまでの知見をまとめてみようと思う。なおここでの西播とは宍粟郡、佐用町、赤穂郡、揖保郡、飾磨郡の5郡と赤穂市、相生市、姫路市、竜野市の4市を含む地域をさし、神崎郡は除外してある。

本種の食草であるナラガシワは、かつては当西播地方の山々に広く自生していた樹木の一つであるらしく、

木炭用の原木としても大いに利用されていたようであるが、家庭用燃料の変化によって木炭の利用度がおちるにつれて次第に伐採され、植林によるスギ林へと変化してゆき、その自生する面積は戦後急速に減少してしまつたようであり、現在もこの傾向はつづいている。ここ20年程の間でも、かつてヒロオビミドリシジミの産地として確認していた場所が現在スギ林にかわつてしまつている場所がかなりある。

現在食草のナラガシワは主として佐用郡、宍粟郡、上郡町等の県西部の岡山県との県境付近に自生地が多く存在し、したがって当地方における本種の産地もその付近に集中している。特に佐用郡下には多くの産地が知られており、個体数も比較的多い所もある。現在までに報告されている佐用郡下の産地の主なものをあげてみると上月町久崎をはじめとして、同下上月、同早瀬、同金屋、同福吉、同福中、佐用町吉福、同山田、同福沢、同大畠、同中の原、同青木、同上石井、同水根、同海内、同奥海、南光町船越、三日月町三日月、同弦谷、佐用町佐用町内等である。佐用町、上月町にくらべて南光町、三日月町の報告例が少ないのは、これら2つの地域には食樹の分布域が少ないということが一つの原因であるが、反面それがためにあまりくわしい調査がおこなわれていないというのも事実であり、さらに新しい産地の発見される可能性は十分にある。ちなみに三日月町三日月の産地はごく最近になって発見されたものである(1977. 6.19 2♂, 1978. 6.17 1♂, 広利正美)。

宍粟郡では山崎町蟹ヶ沢、一宮町井ノ内での採集記録が高田忠彦、井手敏晴の両氏により報告されているが、その大部分はまだ未調査のままで残されており、今後の精力的な調査に期待したい。

一方、より南の上郡町においては筆者がかなり以前、大杉野で採集した記録があり、このことについては「兵庫生物」に発表しておいたが、ごく最近になって近くの同町野桑等からも採集されたという報告がなされている(兵庫県産蝶類調査報告I. 高田・井手)。又、隣接する相生市においては矢野町瓜生で1963年に筆者が採集した記録があるが(兵庫生物, Vol.5.No.1, 1965)、その際近くの矢野町小河にナラガシワ林がかなりある所から、ここでの本種の分布を予言しておいたが、1977年2月6日に高田氏により3卵の採集報告がおこなわれるにいたり、本種の分布がかなり南まで広がっていることが予測される。

赤穂市においてはかなり詳細な調査をおこなっているが今の所分布が確認されていない。当地方の植生等から判断して可能性は極めて少ないように思われる。

揖保郡においては新宮町相坂においての採集記録が唯一のものであり(1977. 6. 17. 1♀, 里田収)、南部の揖保川町、太子市、御津町には報告例がない。新宮町においては今後の調査により新産地の発見される可能性は十分にあるが、それ以外の地域においてはナラガシワが極めて少ないため、産する可能性はうすいであろう。竜野市、姫路市、飾磨郡においても今の所採集されたという報告はなされていない。隣接する地域のように、食草の分布状態から考えて可能性は少ないと思われるが、今後のさらに綿密な調査が望まれる所である。

以上今まで当西播地方において筆者が確認又は報告をうけているヒロオビミドリシジミの産地に関して概略をのべて来たのであるが、まだまだ調査不十分の地域がかなり残されており、今後、多くの同好の志による組織的な分布調査の必要性を痛感する次第である。

最後に、この報文を書くにあたり、資料の提出や有益な助言をいただいた山本広一、木村三郎、松村邦正の各氏及び播磨蝶友会の会員諸氏に深くお礼を申しあげる。



参考文献

- 岩村 巖 (1965) 西播におけるヒロオビミドリシジミの分布に関して、兵庫生物. Vol. 5 No. 1
 高田忠彦・井手敏晴 (1978) 兵庫県産蝶類調査報告、MDK NEWS Vol. 28. No. 79
 広利雅美 (1977) 三日月町の蝶、てんとうむし・No. 4 P. 5

相生市の蝶

川崎 悟 良

1. はじめに

これまで「相生市の蝶」としての蝶類採集報告はなく、西播の蝶分布資料として兵庫県立赤穂高校教員の岩村巖氏が、再々発表されています。相生市は、赤穂市と共に県下の西南端にあって三方は山にかこまれ、一方は瀬戸内海に面し、殆んどが針葉樹におおわれ、昆虫の生息地としての自然環境は誠に貧弱です。蝶の食樹となる広葉樹は少なく部分的に生えているのみです。

市内の北部に君臨する三濃山は、海拔500mあって、山裾や谷間には、クヌギ、コナラ等の雑木がみっ生し、中腹には常緑樹のカシ類があり、西播での昆虫の宝庫と知られています。点在するクヌギ林の梢上を金属光沢まぶしく、翅に一杯の太陽光線をあび、活ぱつとびかうシジミチョウ、谷間や路上をとぶアゲハチョウ、山頂にはアサギマダラの華麗に舞い踊る姿は実にあでやかで、今更乍らに自然の創造に胸うつ思いです。

特に三濃山の稀種として、ムラサキツバメが発生する事です。この蝶は近畿地方では京都府下、滋賀県、紀伊半島南部に局部的に発生し、それも極少と聞いています。相生市で初めて採集されたのは、1963年9月1日で、1♀の記録がある。筆者も1973年と1977年に三濃山で採集している。採集時期は8月のみで、採集3♀2♂の個体はすべて新鮮で、中に翅の伸びきっていない不完全な1♂を採集している。

ムラサキツバメがこの地に発生する事は間ちがいないものと思われるのですが、食樹とするマテバシイ、シリブカガシ等は、植物専門家の言に依ると三濃山にはないと事です。何を食樹としているのか今の所は不明です。考えられる事はムラサキシジミ同様アラカシ等を食樹としているのではないかと考えている。

1976年6月より、9月を通しての調査結果では目撃もできず、察するに、毎年採集、目撃されるだけの個体数の発生はなく、隔年で梢多く発生するものと思われる。

今後は食草並びに発生回数の解明に万全の努力をそそぎたく思っています。

筆者の蝶歴は浅く、知識も未熟で充分ではありませんが相生市蝶採集中間報告とします。

アゲハチョウ科 10種
 アオスジアゲハ・ジャコウアゲハ・モンキアゲハ、ク